

小学生、平和を考える。



津山に残る戦争遺品

①軍服②軍帽(制帽)③軍帽(略帽)④戦時中のかばん⑤銃剣術を練習するための木製の銃⑥出征する兵士の無事を祈る「千人針」⑦集合通知(赤紙)受領綴⑧写真集「聖戦」⑨戦時中の写真

戦争遺品は語る

戦争遺品には、歴史の悲しい記憶が刻まれています。児童たちは真剣なまなざしで津山の戦争遺品を見つめて、遺品に刻まれた記憶を探ろうとします。「千人針を縫った人たちはどんな気持ちだったんだろう」「今、僕の家には赤紙が来たら怖いし、嫌だな」。当時の人たちの気持ちを探り、自分の身をその時代に置いてみえています。

市では、戦争遺品の寄贈を受け付けています。寄贈いただいた品は、市の協賛・後援団体に貸し出すことができます。

個人権啓課 ☎ 31・008



①千羽鶴を捧げる ②原爆の子の像に黙祷 ③平和の誓いを宣誓 ④原爆が投下された午前8時15分で止まったままの時計(児童撮影) ⑤心を込めて平和の鐘を打つ ⑥修学旅行後、絵本を使った劇で戦争の悲惨さを下級生に伝える

修学旅行での学び

広島小学校の6年生19人は、平和教育の一環として修学旅行で広島へ行きました。修学旅行前には、原子爆弾や原爆資料館、平和記念公園、そして原爆症が治るようになると願いながら、千羽鶴を折り続けた佐々木禎子さんについて調べました。平和記念公園では、平和集会を開き、原爆の子の像に全校生徒で折った千羽鶴と黙祷を捧げました。また、児童で考えた「平和の誓い」を宣誓して平和を願いました。そして、修学旅行後には、見て来たこと感じたことを下級生に伝えるため、絵本を使った劇を作って発表しました。

でも、いったい戦争って何だろう？ 平和って何だろう？

